

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：82602

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24590829

研究課題名(和文) 多胎児のための親子関係改善介入プログラムの開発と評価に関する研究

研究課題名(英文) Evaluation of parenting program for multiple birth families

研究代表者

加藤 則子 (Kato, Noriko)

国立保健医療科学院・その他部局等・その他

研究者番号：30150171

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：多胎児は医学的問題や育児負担が大きいいため、親子関係を改善するような親支援介入プログラムを多胎児に応用してその有用性を評価しようとした。無作為ランダム化デザインによって、1歳から5歳までの双子を持つ家庭において性、年齢、子どもの行動の問題の程度(SDQを使用)で層化したうえで、介入群22例、ウエイトリスト群22例を設定した。行動に問題や困難を感じる双子の一人に対してとし、双子のうちのもう一人を介入対象とした。介入群では、双子の一人に介入効果が生じた場合、もう片方の問題行動も解決され子育ての特徴もより一貫したものに変わってゆく事が分かった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to investigate the effectiveness of a family intervention program, with twin families in Japan. Participants of both the intervention and control groups (N = 22 and N = 22, respectively) were recruited from mothers living in Wako and Saitama Cities, Saitama. The SDQ(Strength and Difficulty Questionnaire) score the PS(Parenting Scale), the DASS(Depression-Anxiety-Stress Scale) were significantly reduced in the intervention group alone. Parenting intervention is effective in decreasing child conduct problems, dysfunctional parenting practices, depression, anxiety, stress, and the perceived level of parenting difficulty, as well as in improving parenting confidence, among Japanese families. Among co-twins of target twins, social adjustment improved in accordance with improvement in the target twins.

研究分野：小児保健

キーワード：多胎児 親支援 評価

### 1. 研究開始当初の背景

多胎児は、妊娠リスクを伴い出生児の問題から育児困難がおこりやすく、また、一度に二人以上を育てることによる育児負担も加わり、児童虐待を起しやすくする要因にもなっている。これまで多胎児の育児支援が必要なことは強調されてきているが、そのひとつに、親子関係を改善するような介入を行う支援の方法が考えられる。

これまで一般児に対しては、子どもの行動に対応の困難を感じる親に対し介入プログラムを試行し効果を得てきた。このプログラムとして、オーストラリアで25年前に開発され現在25カ国で実践され効果を得ているトリプルP前向き子育てプログラムを採用した(Sanders MR et al. J Consult Clin Psychol, 2000)。同プログラムは地域ベースの介入が可能であり、米国では人口100万人規模の地域介入実践研究がおこなわれている(Printz R et al. Prev Sci, 2005)。

このように親子関係が改善されるプログラムは多胎児の親の様にリスクが高いグループにこそ行われることが望ましいが、これまで試みられることがなかった。その理由の一つに、多胎児同士の行動に相互作用があって、行動目標の立て方などに困難があったことが考えられる。これまでわが国で一般児に対して有用性が証明されている(Fujiwara T et al. J Child Family Studies, in press)前向き子育てプログラムは、いろいろなレベルに対応できる選択肢を備えているので、そのなかで多胎児の家庭に行うのに適切なものを選択すれば応用が可能である。

単一の問題行動に絞って介入を行うレベル3プライマリーケアトリプルPは、多胎児に応用可能かトライアルを行うのに適切である。まず、育児負担が多く時間の都合の合わせにくい多胎児家庭にとっては、グループディスカッションによる介入は参加の負担が大きいので、グループでなく個人を相手とする当該介入が適している。また、単一の問題行動をターゲットとするこの介入法は、効果を判定するうえで、多胎児間の相互作用がどのようなかわりをもつかを分析してゆく上で有効な手段である。

双子の片方が愛せない親が多い(Tanimura Met al. Lancet, 1990)のが、日本の双子の親の養育問題の一つとして知られている。こういった問題にも解決策が見いだせると考えられる。

本研究は親支援介入プログラムを多胎児に応用して、その有用性を評価しようとするものである。

### 2. 研究の目的

多胎児は、妊娠リスクを伴い出生児の問題から育児困難がおこりやすく、また、一度に二人以上を育てることによる育児負担も加わり、児童虐待を起しやすくする要因にも

なっている。親子関係が改善されることが科学的に証明されているプログラムは、多胎児の親の様にリスクが高いグループにこそ行われることが望ましい。育児負担が多く時間の都合の合わせにくい多胎児家庭にとって応用しやすく、効果を判定するうえで、双子のもう片方がどのようなかわりをもつかを分析しやすいカスタマイズを行う。本研究は親支援介入プログラムを多胎児に応用して、その有用性を評価しようとするものである

### 3. 研究の方法

#### 実施人員の育成

一般児において効果の検証されている親介入プログラム(レベル3プライマリーケアトリプルP)を多胎児に応用する場合の留意点について、面接調査等によって明らかにしたうえで、関東地方在住の当該プログラム有資格ファシリテータに、多胎児にプログラムを実施する上での事前トレーニングを行った。

#### ランダム化比較試験

前期介入群は事前調査後すぐに4週間にわたる介入を行い、介入後事後評価を行う。事後介入群は、事前調査ののち介入を行わずに4週間後に同様の評価を行い、介入のない場合の変化の状況を観察したのち4週間の介入を行う。後期介入群は、介入を行わない場合の比較対照のために設定するものであるが、悩みを抱えているので、比較対象のための観察後同様の介入によってケアを行う。

#### 評価手法

-PX (parenting scale 子育ての特徴 多弁さ、過剰反応、手ぬるさ) 30項目

-SDQ (strength and difficulties questionnaire 親の感じる子育ての難しさ 交友関係、多動性、行為問題、感情問題) 25項目

-DASS (depression, anxiety and stress score 抑うつ不安ストレス尺度) 42項目

-このほかに、多胎児の親子の関わりや、他の他胎児とのかかわりにより介入状況に影響があるかなど、多胎児特有の要素について分析するために、介入面接の逐語録を取る。

#### 介入の方法

-1 週目：主要問題のアセスメント(インタビュー面接、介入支援の選択肢、行動記録)

-2 週目：子育てプランの作成(アセスメント結果のフィードバック、問題行動の原因、変化への目標、子育てプランの作成)

-3 週目：実践を振り返る(進捗を確認する、その他の問題について)

-4 週目：フォローアップ(進捗を確認する、その他の問題、プログラムの終了)

-介入に当たっては日時を決め多胎児家庭を

訪問する。その際、面接が有効に行われるように、多胎児専門の保育技術を持つ保育者が同行する。

#### 介入の実施

和光市とさいたま市の子育て支援 NPO 法人の協力を得て、1 歳から 5 歳までの双子を持つ家庭のリストの提供を受け、性、年齢、子どもの行動の問題の程度 (SDQ を使用) で層化したうえで、介入群 22 例、ウエイトリスト群 22 例を設定した。この中で、実際に介入が出来たのは 20 例、前後の諸指標が評価できたのは介入群 19 例、ウエイトリスト群 17 例であった。介入は、何らかの行動に問題や困難を感じる双子の一人に対してとし、双子のうちのもう一人が介入効果にどのような影響を及ぼしているのかを検討した。

#### 4. 研究成果

介入した場合はしない場合より、PS(子育ての多弁さ、過剰反応、手ぬるさ)が有意に改善し、SDQ(親の感じる子育ての困難さ)が有意に減少し、DASS(抑うつ不安ストレス尺度)が有意ではないが減少した。双子のもう片方も同様に評価した結果、ウエイトリスト群では、双子同士の相互作用により、問題行動はより困難化していることが分かった。介入群では、双子の一人に介入効果が生じた場合、もう片方の問題行動も解決され子育ての特徴もより一貫したものに変わってゆく事が分かった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8 件)

- (1) Noriko Kato, Hidemi Takimoto, Tetsuji Yokoyama, Susumu Yokoya, Toshiaki Tanaka, and Hiroshi Tada. Updated Japanese growth references for infants and preschool children, based on historical, ethnic and environmental characteristics. Acta Paediatrica. Jun 2014; 103(6): e251-e261.
- (2) 加藤則子, 柳川敏彦, 澤田いずみ. 育児に困難感を抱く親への支援 トリプル P の取り組みから. 保健師ジャーナル 2014;70(5):390-394.
- (3) Juko Ando, Keiko K. Fujisawa, Chizuru Shikishima, Kai Hiraishi, Mari Nozaki, Shinji Yamagata, Yusuke Takahashi, Koken Ozaki, Kunitake Suzuki, Minako Deno, Shoko Sasaki, Tatsushi Toda,

Kazuhiro Kobayashi, Yutaro Sugimoto, Mitsuhiro Okada, Nobuhiko Kijima, Yutaka Ono, Kimio Yoshimura, Shinichiro Kakihana, Hiroko Maekawa, Toshimitsu Kamakura, Koichi Nonaka, Noriko Kato and Syuichi Ooki . Two Cohort and Three Independent Anonymous Twin Projects at the Keio Twin Research Center(KoTReC).Twin Research and Human Genetics. journals.cambridge.org/thg. February 2013; (16)1: p.202-16.

- (4) Kato N, Sauvaget C, Kato T. Large summer Weight gain in relatively overweight preschool Japanese children. Pediatr Int. 2012 Aug;54(4):510-5.
- (5) Kato N, Takimoto H, Eto T. The regional difference in children's physical growth between Yaeyama Islands of Okinawa Prefecture and national survey in Japan. 保健医療科学 . October 2012; 61(5):448-53.
- (6) 柳川敏彦, 平尾恭子, 加藤則子, 上野昌江, 山田和子, 北野尚美, 家本めぐみ, 梅野裕子, 白山真知子, 上村信恵, 村田浩子, 清水里美, 藤田一郎, 中島範子, 久野千恵子. 自閉症スペクトラム障害の子供の家族のためのペアレント・プログラムの実践 - グループ・ステップングストーンズ・トリプル P の効果について - . 子どもの虐待とネグレクト特集 第 17 回学術集会(いばらき大会) 日本子ども虐待防止学会 2012.10.(14)2. p.135-52.
- (7) 加藤則子. いじめ, 不登校に対する子育ての視点からのアプローチ. 特集 第 32 回日本思春期学会総会学術集会. パネルディスカッション「思春期を取り巻く心の問題 - いじめ・不登校・子ども虐待」. 思春期学 32(1)2014.p89-93 . 日本思春期学会 .
- (8) 加藤則子, 柳川敏彦. 子育てを楽しむためのペアレント・トレーニング. 特集 子育て支援とペアレント・トレーニング. チャイルドヘルス 診断と治療社 . 2013;(16)11: p26-30(780-4).

〔学会発表〕(計 11 件)

(1) Yanagawa T, Kato N, Ueno M, Yamada K. Study of the implementation and effectiveness of Triple P-Positive Parenting Program for abusive parents of child maltreatment in the child guidance center. XXth ISPCAN International Congress 2014.9.15, Nagoya

(2) 坂戸美和子, 加藤則子. 児童虐待における親(家族)支援についての研究と実践 近年の流れについての一考察. 第110回日本精神神経学会; 2014.6.26-28; 横浜.

(3) 加藤則子. 「抗少子化と育児支援」. メインシンポジウム 1: 抗少子化に向けた産育システム. 第 87 回日本産業衛生学会; 2014.4.21-24.; 岡山. 産業衛生学雑誌;56(臨時増刊号): 156.

4) Kato N, Noguchi-Yoshida S, Yoshida H, Yokoyama T. Perinatal mortality risk for dizygotic twins remains consistent through artificial reproductive technology. 第 25 回日本疫学会学術総会. 名古屋. 2015.1

5) 加藤則子, 吉田(野口)都美, 吉田穂波, 横山徹爾. 異性双生児の周産期リスクは同性双生児より低いとその差は縮まっている. 第 29 回 日本双生児研究学会学術集会. 金沢. 2015.1

(6) 加藤則子. 全国児童相談所の親支援プログラム実施状況. 日本子ども虐待防止学会第 19 回学術集会信州大会. 2013.12.13-14. 松本. プログラム・抄録集: 80.

7) 柳川敏彦, 加藤則子, 家本めぐみ, 上野昌江, 山田和子. 児童虐待による一時保護児童と家族の親子再統合に関する研究 - 全国児童相談所のアンケートによる現況調査 -. 日本子ども虐待防止学会第 19 回学術集会信州大会. 2013.12.13-14. 松本. プログラム・抄録集: 217.

(8) 加藤則子, 吉田穂波, 横山徹爾, 瀧本秀美, 大木秀一. 双胎児の出生体重、アディポシティリバウンド及び6歳時BMIに関する単胎双胎間の比較検討 第 72 回日本公衆衛生学会総会. 2013.10.23-25. 三重. 学会総会抄録集: 368.

(9) Toshihiko Yanagawa, Noriko Kato, Megumi Iemoto, Hiroko Umeno. Implementation of Stepping Stones Triple P(Positive Parenting Program) for parents of a child diagnosed with an Autism

Spectrum Disorder. 15th Helping Families Change Conference, Los Angeles Feb 15, 2013.

(10) Noriko Kato, Toshihiko Yanagawa, Megumi Iemoto, Hiroko Umeno. Effectiveness of Group Positive Parenting Program(Triple P) in changing child behavior, parenting style, and parental adjustment: An intervention study in Japan. 15th Helping Families Change Conference, Los Angeles Feb 15, 2013.

(11) 衛藤隆, 近藤洋子, 松浦賢長, 倉橋俊至, 横井茂夫, 恒次欽也, 加藤則子, 川井尚, 竹島春乃, 堤ちはる, 高石昌弘, 平山宗宏, 横山徹爾. 幼児の保護者の心身の健康と対児感情等に影響を及ぼす要因に関する検討. 第 59 回日本小児保健協会学術集会 愛しい子どもたちに～今、私たちにできること; 2012.9.27-29. 岡山 日本小児保健協会学術集会講演集; p.113.

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者  
加藤則子 (国立保健医療科学院)

研究者番号: 30150171

(2) 研究分担者  
瀧本秀美 (国立健康栄養研究所 )

研究者番号: 50270690

柳川敏彦（和歌山県立医科大学　　）

研究者番号：80191146

(3)連携研究者